

健康福祉常任委員会 所管事務報告

資 料

令和6年12月11日

中央病院の経営状況について（令和6年度上半期）

中央病院 病院改革担当部 経営企画課

1. 概況

- ・令和6年4月、新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という。）の5類移行後も継続していた発熱外来の継続や入院受入れ用の病床確保などの取組を終了し、通常対応に完全移行しました。
- ・令和8年度上期の県立西宮病院との統合に向けた業務が本格化するなか、令和5年10月に見直した経営改革プランに基づき、病床稼働率及び収益向上に向けた各種取組を実施しました。
- ・経営改革プランでは「病床稼働率 80%の達成」を病院全体の目標として掲げています。年度当初の4月には、病院事業管理者による令和6年度経営方針及び重点取組項目の訓示を行い、各部門や個人の目標に反映させ、病院全体で経営改革プランの取組を推進する仕組みを構築しました。
- ・結果として、上半期の病床稼働率は77.2%、1日平均患者数は116.6人（計画比▲2.8 割、▲4.4人、前年度比+4.9 割、+7.4人）となり、目標には届きませんでした。
- ・一方で、月別では7月、8月と2カ月連続で80%超を達成するなど、前年度に比べると大きく増加しました。

<病床稼働率の状況（月別）>



- ・医業収益については、入院収益の伸び悩みにより、約23億4,800万円（計画比▲1,200万円、前年度比+3,400万円）となり、計画値を下回りました。
- ・医業費用については、人事院勧告に基づく給与改定による給与費増などにより、約28億3,500万円（計画比+2,000万円、前年度比+1,900万円）となり、計画値を上回りました。
- ・医業収支は約4億8,700万円の赤字（計画比▲3,200万円、前年度比+1,500万円）となり、計画値に届きませんでした。
- ・純損益については、約1億8,800万円の損失（計画比▲1,700万円、前年度比▲800万円）を計上し、前年度、計画値ともに届きませんでした。なお、令和5年度は新型コロナ関連補助金として約4,000万円が収益計上されているため、実質的な収支としては前年度より改善されています。

2. 上半期における主な取組

(1) 病床稼働率及び収益向上に向けた取組

①令和6年度経営方針及び重点取組項目の設定と共有

- ・年度当初に重点取組項目として「紹介患者数のさらなる獲得」「費用の節減」「医療サービスの向上」を設定し、病院事業管理者の訓示等を通じて、各部門と共有しました。
- ・各部門には経営改革プランや重点取組項目を意識した目標設定を依頼し、経営層による部門別ヒアリングにおいて、目標や取組について協議・確認しました。なお、各部門の目標については、目標管理制度を通じて、職員個人の目標と連携させています。

②診療所等への訪問活動の強化

- ・令和5年度から継続して、病院を挙げて地域の診療所等への訪問活動を実施しています。
- ・令和6年度は、訪問時のPR強化として、各診療科のPRチラシを作成し、訪問時に配布して医師が直接説明するなど、訪問対応の標準化を図りました。

- ・内視鏡検査を実施しているクリニックに消化器外科の医師が訪問し、当院の手術体制や実績をPRするなど、訪問先については診療科と協議のうえ決定しています。
- ・訪問件数は年間200件以上を目標に掲げており、上半期の訪問件数は99件で、概ね目標どおりの進捗となっています。

③救急応需体制の強化

- ・9月に西宮市消防局救急課と意見交換を実施し、引き続き円滑な受け入れができるよう中央病院の体制等について情報共有を行いました。
- ・診療時間内の救急応需体制について、令和5年10月から専攻医¹を中心とした専任配置制を試行実施し、円滑に運用できたことから、令和6年4月から本格実施しています。

<診療時間内の救急応需状況>

項目	単位	R6 上半期実績	R5 上半期実績	増減値
救急搬送応需率	%	75.5	70.8	+4.7

④手術支援ロボット「ダヴィンチ」の更新

- ・令和6年12月に現行機種 Si の保守期限を迎えることから、現行の医療水準を確保するため、7月に後継機種である X に更新しました。
- ・更新にあたり、市政ニュースへの記事掲載（8月25日号）や連携登録医へのメーリングリストでの配信（8月1日配信）、診療所訪問時のPRなどにより、広報を行っています。

<ロボット手術件数の状況（年度別）>

項目	単位	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
泌尿器科	件	6	39	33	40	63	56	69	38
消化器外科		-	-	-	-	-	7	17	8
計		6	39	33	40	63	63	86	46

※「H29」はH30年2月～3月の2ヶ月間、「R6」はR6年4～9月の6ヶ月間の実績です。

⑤各指導料等の算定件数の増加

- ・継続的に各指導料等の算定件数の増加に取り組んでいます。

<これまでの取組実績>

薬剤管理指導料（増収効果額 450万円/年）、外来迅速検体検査加算（同 200万円/年）、リハビリテーション総合実施計画評価料（同 140万円/年）、栄養食事指導料（同 130万円/年）

⑥DPC データを活用した経営改善の取組の検討・実施

- ・データ分析の結果を基に、後発医薬品への切り替えを推進しています。後発医薬品の使用割合は90%を超え、後発医薬品使用体制加算1を算定しています。
- ・そのほか疾患ごとに出来高収益との比較や在院日数など、様々な切口で他病院との比較分析を進めており、今後も取組を継続します。

¹ 専攻医とは、従来の「後期研修医」に相当する呼称で、新専門医制度の下、初期研修（2年間）を終え、専門研修プログラムを受けている医師を指します。

(2) 費用節減に向けた取組

①電気使用量の削減

- ・電気使用量削減のため、執務室や共用部における執務時間外の間引き消灯や、OA 機器類の未使用時における電源オフの徹底に取り組んでいます。また毎月、電気使用量を職員間で共有し、意識啓発にも努めています。

②外来応援体制の見直し

- ・患者数の少ない外来を中心に医師の応援体制を見直し、報償費の削減を図りました。

③診療材料の安価な同種同効品への切り替え

- ・既存の診療材料よりも安価な同種同効品がある場合は、現場に対して切り替えの提案を行うとともに、メーカー間の競争を促すことで単価の引き下げを行うなどの取組を実施しています。

④その他

- ・各部門は経営改革プランや重点取組項目を意識した目標を設定しており、一部の部門では、業務の効率化や時差出勤の活用による超過勤務時間の削減や、自部門で取扱う材料費の節減などの取組を行っています。

(3) その他院内での取組

①ホームページの予算・決算情報の充実【新規】

- ・従前より決算情報の公表をしていましたが、予算情報と合わせてより充実した内容にリニューアルしました。特に市からの財政支援（繰入金）について、目的や金額の推移など詳細な情報を公表しています。

②ふるさと納税の用途の追加【新規】

- ・市のふるさと納税取り組み強化（用途と返礼品の充実）の一環として、令和6年5月から、主に救急医療の体制維持に充てることを目的として、「中央病院応援寄附金」を追加しました。
(参考) 令和6年5月～9月の寄附実績：84件、132万6,000円

③中央病院版「オンライン目安箱」の設置【新規】

- ・市長が実施しているアイデア募集ツール「目安箱」を参考に、病院職員が匿名で病院事業管理者に経営改善の提案などができるシステムとして、7月から中央病院版「オンライン目安箱」の運用を開始しました。

④グッジョブ・サンクスカードの電子化【新規】

- ・職員が相互に感謝の気持ちを伝え合うことで、職員個人のモチベーションアップを図る取組として「グッジョブ&サンクスカード」を実施しています。
- ・これまで紙での投票で運用していましたが、より手軽に投票でき、集計事務の負担も軽減できるよう電子化対応しました。

⑤職員の経営参画意識の醸成【継続】

- ・経営情報の共有を通じて、職員の経営参画意識の醸成に努めています。

<経営情報に関する院内モニタリング状況>

頻度	主な実施内容など
日次	・電子カルテ上に当日の病床稼働状況を表示し、職員間で共有しています。
週次	・病院事業管理者や院長等の経営層が出席する経営会議で前週の経営状況や病床稼働状況を報告しています（報告資料は全職員にメール配信しています）。 ・看護師長会で前週の各病棟別の病床稼働状況を報告しています。
月次	・各部門の長が出席する運営協議会で前月の経営状況を報告しています。

(4) 県立西宮病院との統合に向けた取組

- ・令和5年度から引き続き、建築工事の図面（総合図）の確認、医療機器・医療情報システム、搬送、運用など、各種分野のWG（ワーキンググループ）を開催し検討を重ねています。
- ・建築工事は9月末時点で工期全体の約40%の進行、4、5階部分の躯体工事に取り掛かっており、ほぼ予定通りの進捗となっています。

<令和6年度上半期の主要な会議・WGの検討内容と開催頻度>

種類		検討内容	回数・頻度
統合推進本部会議		両病院の経営層に進捗報告、承認	月1回（定例）
事務局定例会議		両病院の事務局とコンサルによるWG全体の進捗管理、進め方の協議、課題解決の検討	月1回（定例）
総合図ヒアリング		建築に着手するための、最終の図面確認・修正	月3～6回
WG	医療機器	医療機器・医療情報システムに係る各部門ヒアリング（要望とりまとめ～予算枠に収めるための削減交渉）、整備方針の検討など	月5～10回
	運用	入院・外来患者の対応を軸とした基本的な運用フローを策定し、業務分担、両病院や部門間での考え方の違いについて協議・調整	月1～3回
	委託・移転	各種の業務委託、移転引越業務の仕様書の内容を検討	月1～3回
	SPD・搬送	搬送ロボット導入に係る運用、仕様書の検討	月1回

3. 収支実績及び業務実績

(1) 収益的収支状況

(単位：千円)

項目	計画との比較				前年度との比較		
	R 6実績 (A)	計画値 (B)	増減値 (A)-(B)	達成率 (A)/(B)	R 5実績 (C)	増減値 (A)-(C)	増減率 ((A)-(C))/(B)
医業収益	2,348,177	2,360,450	▲ 12,273	99.5%	2,314,147	+ 34,030	+ 1.5%
入院収益	1,289,492	1,321,110	▲ 31,618	97.6%	1,281,363	+ 8,129	+ 0.6%
外来収益	800,069	791,162	+ 8,907	101.1%	774,898	+ 25,171	+ 3.2%
その他医業収益	258,616	248,178	+ 10,438	104.2%	257,886	+ 730	+ 0.3%
医業費用	2,834,948	2,819,109	+ 15,839	100.6%	2,815,759	+ 19,189	+ 0.7%
給与費	1,392,155	1,368,164	+ 23,991	101.8%	1,376,296	+ 15,859	+ 1.2%
材料費	607,265	618,690	▲ 11,425	98.2%	591,831	+ 15,434	+ 2.6%
経費	697,100	692,372	+ 4,728	100.7%	688,211	+ 8,889	+ 1.3%
減価償却費	122,103	122,836	▲ 733	99.4%	150,855	▲ 28,752	▲ 19.1%
その他医業費用	16,325	17,047	▲ 722	95.8%	8,566	+ 7,759	+ 90.6%
医業収支	▲ 486,771	▲ 458,659	▲ 28,112	—	▲ 501,612	+ 14,841	—
医業外収益	345,190	330,048	+ 15,142	104.6%	364,915	▲ 19,725	▲ 5.4%
医業外費用	48,570	48,633	▲ 63	99.9%	49,337	▲ 767	▲ 1.6%
経常収支	▲ 190,151	▲ 177,244	▲ 12,907	—	▲ 186,034	▲ 4,117	—
特別利益	2,122	2,507	▲ 385	84.6%	6,768	▲ 4,646	▲ 68.6%
特別損失	26	246	▲ 220	10.6%	315	▲ 289	▲ 91.7%
純損益	▲ 188,055	▲ 174,983	▲ 13,072	—	▲ 179,581	▲ 8,474	—

※現金支出を伴わない費用（減価償却費など）や一般会計繰入金など12等分で算出している項目があります。

※「計画値」は、経営改革プランに掲げている年間の計画値をそれぞれ期間に応じた経過日数で除して算出しています。

【主な増減項目と内訳】

項目	計画との比較		前年度との比較	
	増減値	増減理由など	増減値	増減理由など
医業収益	▲ 12,273		+ 34,030	
入院収益	▲ 31,618	・患者数の計画未達	+ 8,129	・患者数の増加
外来収益	+ 8,907	・診療単価の増加	+ 25,171	・患者数の増加
その他医業収益	+ 10,438	・室料差額収益の増加	+ 730	・同左
医業費用	+ 15,839		+ 19,189	
給与費	+ 23,991	・人事院勧告に基づく給与改定の影響	+ 15,859	・同左
材料費	▲ 11,425	・患者数の計画未達	+ 15,434	・患者数の増加
経費	+ 4,728	・事務職給与費負担金の増加	+ 8,889	・同左
減価償却費	▲ 733	・固定資産の減少	▲ 28,752	・同左
その他医業費用	▲ 722	・研究研修費の抑制	+ 7,759	・固定資産除却費の増加
医業外収益	+ 15,142	・一般会計負担金の増加	▲ 19,725	・空床補償補助金の減少
医業外費用	▲ 63	・企業債利息の減少	▲ 767	・長期前払消費税額償却の減少
特別利益	▲ 385	・その他特別利益の減少	▲ 4,646	・過年度損益修正益の減少
特別損失	▲ 220	・過年度損益修正損の減少	▲ 289	・同左

(2) 業務状況

項目	計画との比較				前年度との比較			
	R 6実績 (A)	計画値 (B)	増減値 (A)-(B)	達成率 (A)/(B)	R 5実績 (C)	増減値 (A)-(C)	増減率 ((A)-(C))/(B)	
入院	1日平均患者数 (人/日)	116.6	121	▲ 4.4	96.4%	109.2	+ 7.4	+ 6.8%
	病床稼働率(151床) (%)	77.2	80	▲ 2.8	96.5%	72.3	+ 4.9	+ 6.8%
	新入院患者数 (人)	1,930	2,005	▲ 75	96.2%	1,896	+ 34	+ 1.8%
	平均在院日数 (日)	11.1	11.0	+ 0.1	100.9%	10.5	+ 0.6	+ 5.7%
	診療単価 (円)	60,432	59,500	+ 932	101.6%	64,139	▲ 3,707	▲ 5.8%
外来	1日平均患者数 (人/日)	383.8	390	▲ 6.2	98.4%	378.0	+ 5.8	+ 1.5%
	診療単価 (円)	16,812	16,650	+ 162	101.0%	16,530	+ 282	+ 1.7%
その他指標	救急搬送受入件数 (件)	641	752	▲ 111	85.2%	791	▲ 150	▲ 19.0%
	救急搬送応需率 (%)	63.0	-	-	-	59.0	+ 4.0	+ 6.8%
	応需率(補正後) (%)	99.7	100	▲ 0.3	99.7%	98.5	+ 1.2	+ 1.2%
	紹介率 (%)	85.3	78.0	+ 7.3	109.4%	82.5	+ 2.8	+ 3.4%
	紹介件数 (件)	5,673	5,716	▲ 43	99.3%	5,317	+ 356	+ 6.7%
	逆紹介率 (%)	100.8	88.0	+ 12.8	114.5%	96.3	+ 4.5	+ 4.7%
	逆紹介件数 (件)	5,373	5,214	+ 159	103.0%	4,906	+ 467	+ 9.5%

※「応需率(補正後)」は、満床や診療中などのやむを得ずお断りした事例を要請件数から差し引いて算出しています。

【主な増減項目と内訳】

項目	計画との比較		前年度との比較	
	増減値	増減理由など	増減値	増減理由など
入院	1日平均患者数 (人/日)	▲ 4.4	+ 7.4	・新入院患者数の増加
	病床稼働率(151床) (%)	▲ 2.8	+ 4.9	
	新入院患者数 (人)	▲ 75	+ 34	・紹介件数の増加
	平均在院日数 (日)	+ 0.1	+ 0.6	・同左
	診療単価 (円)	+ 932	・機能評価係数Ⅰの増加	▲ 3,707
外来	1日平均患者数 (人/日)	▲ 6.2	+ 5.8	・紹介件数の増加
	診療単価 (円)	+ 162	+ 282	・同左
その他指標	救急搬送受入件数 (件)	▲ 111	▲ 150	・同左
	救急搬送応需率 (%)	-	+ 4.0	
	応需率(補正後) (%)	▲ 0.3	+ 1.2	
	紹介率 (%)	+ 7.3	+ 2.8	・同左
	紹介件数 (件)	▲ 43	+ 356	・内科等の紹介件数の増加
	逆紹介率 (%)	+ 12.8	+ 4.5	・同左
	逆紹介件数 (件)	+ 159	+ 467	・同左

※「機能評価係数Ⅰ」は、DPC制度において、医療機関の人員配置や機能等、医療機関単位での構造的因子を評価する入院基本料等加算等を係数として設定したものです。

4. 分析と課題（計画値との比較）

（1）入院収益に関して

①入院収益が計画値を下回った要因

- ・入院収益は約 12 億 9,000 万円となり、計画値を約 3,200 万円下回りました。
- ・月別では病床稼働率 80%を達成した月もあったものの、累計では 77.2%（1 日平均患者数は 116.6 人）となり、目標の 80%に届かなかったことが要因として挙げられます。
- ・病床稼働率 80%を達成できなかった要因としては、新入院患者数が 1,930 人となり、計画値を 75 人下回ったことが挙げられます。

<病床稼働率の状況（月別）（再掲）>



②新入院患者数が計画を下回った要因

- ・経路別では、「紹介」及び「その他(通院患者で急性憎悪等により入院する場合など)」からの患者数は前年度に比べて増加していますが、「救急」からの患者数が減少しています。
- ・「救急」からの患者数の減少は、救急搬送要請件数の減少に伴う救急搬送受入件数の減少による影響であると考えています。救急搬送受入件数の入院化率（受入件数のうち入院に至った患者数の割合）は上昇しており、引き続き、積極的な応需に努める必要があります。
- ・「その他」からの患者数の増加が顕著ですが、入院化率は低く、意図的に増加を図ることは困難であると考えています。
- ・新入院患者のさらなる獲得に向けては、診療所訪問などの地域の医療機関等との連携強化を図る取組を通じて、「紹介」からの患者数増加を図る必要があります。

<新入院患者数の状況（経路別）>

項目	単位	R6 上半期実績		R5 上半期実績		増減値	
		患者数	入院化率	患者数	入院化率	患者数	入院化率
入院経路	紹介	1,020	24.4%	1,015	26.5%	+5	▲2.1
	救急	276	43.1%	313	39.6%	▲37	+3.5
	その他	634	1.5%	568	1.3%	+66	+0.2
計		1,930	-	1,896	-	+34	-

③さらなる収益増加に向けた課題

●紹介からの入院患者数の増加

- ・紹介件数は年々増加傾向にあり、令和6年度上半期の実績はコロナ禍前の令和元年度を上回る 5,673 件となりましたが、計画値 (5,716 件) にはわずかに届きませんでした。
- ・「紹介」からの入院患者数は 1,020 人となり前年度実績を上回りましたが、紹介件数のうち入院につながった患者の割合はやや減少しています。
- ・入院につながる患者に限定した対応は現実的ではないため、「紹介」からの入院患者数の増加を図るためには、紹介件数の底上げが必要です。

<紹介件数の状況（年度別上半期実績）>

項目	単位	R1	R2	R3	R4	R5	R6
紹介件数	件	5, 277	4, 042	4, 665	5, 186	5, 317	5, 673

●救急応需体制の維持・強化

- ・救急搬送受入件数や応需率については、消防局からの要請件数の増減に影響されますが、市内の救急搬送件数は増加し続けているものの、当院を含めた救急対応医療機関全体の応需状況が改善傾向にあることなどの理由から、当院への要請件数は減少傾向にあります。
- ・また、補正後の応需率が100%に近づきつつあることを踏まえると、応需すべき事例についてはその殆どに対応できていると考えています。
- ・一方で、救急医療の充実が市民のニーズが高い項目であるため、限られた人員体制のなかで応需体制を大幅に強化することは難しい状況にありますが、応需体制の維持・強化や積極的に応需する意識の醸成などの取組を検討していく必要があります。

<救急搬送要請件数の状況（年度別上半期実績）>

項目	単位	R1	R2	R3	R4	R5	R6
救急搬送要請件数	件	772	644	803	1, 342	1, 341	1, 017

●感染症対策の徹底と患者サービスの両立

- ・新型コロナを含む感染症の院内感染が発生した場合、患者の安全性を脅かすとともに病院経営に多大な影響を及ぼすため、一部面会の制限などを継続しています。
- ・今後も状況を見極めながら、患者サービスとの両立の観点も考慮しつつ、感染防止対策の検討・実施を通じて適切に判断していきます。

(2) 外来収益に関して

①外来収益が計画値を上回った要因

- ・外来収益は約8億円となり、計画値を約900万円上回りました。
- ・主たる要因としては、診療単価が16,812円となり、計画値を162円上回ったことが挙げられます。これは、化学療法等に用いる高額な薬品の使用量の増加に伴う影響が考えられます。

②さらなる収益増加に向けた課題

- ・中央病院では、地域の診療所等との役割分担の観点から、紹介状を持参しない初診患者が受診する場合、初診時選定療養費（医科 7,000円、歯科 5,000円）を徴収するため、こうした患者の増加を図ることは現実的ではありません。
- ・初再診別の患者数を見ると初診患者数は前年度から微増、紹介率（初診患者数のうち紹介件数の占める割合）は85.3%と前年度より増加しており、地域診療所との役割分担はできていると言え、引き続き、紹介件数の増加に向けた取組が必要です。

<1日平均外来患者数（初再診別）>

項目	単位	R6上半期実績	R5上半期実績	増減値
初診患者数	人/日	44.4	43.6	+0.8
再診患者数		339.4	334.4	+5.0
計		383.8	378.0	+5.8

5. 課題への対応と今後の方針

(1) 病床稼働率及び収益向上に向けた取組

令和6年度においては、7月、8月と2カ月連続で病床稼働率80%超を達成できましたが、9月から10月にかけて減少傾向に転じています。そのため、9月の運営協議会では、病院事業管理者より、上半期総括と取組の推進に関する訓示を行い、全職員に共有しました。今後、年間通じて病床稼働率80%を達成するためには、より一層患者獲得の取組を推進していく必要があります。

①地域の診療所等との連携強化

- ・診療所訪問を継続し、診療所等との連携強化に努めるとともに、実効性を高めるための訪問先の選定など適宜見直していきます。
- ・紹介患者に関する返書（紹介元の診療所等への報告など）の頻度やタイミングについて、院内ルールの遵守徹底に努めます。

②救急応需体制の維持・強化

- ・時間内救急体制の運用を継続していくほか、現状に満足することなく、応需体制の維持・強化や積極的に応需する意識の醸成などの取組を検討します。

③感染症対策の徹底と患者サービスの両立

- ・感染症対策と患者サービスの両立の観点から感染防止対策の検討・実施を通じて、引き続き、受診環境の維持・向上に取り組みます。

④手術支援ロボット「ダヴィンチ」の活用

- ・平成30年2月にダヴィンチを導入して以降、着実に手術件数は増加しており、令和4年度からは泌尿器科での利用に加えて、消化器外科での利用も開始しています。
- ・今後もダヴィンチXを積極的に活用し、さらなる手術件数の増加に努めます。

(2) 費用節減に向けた取組

①電気使用量の削減

- ・引き続き、電気使用量削減のため、執務室や共用部における執務時間外の間引き消灯や、OA機器類の未使用時における電源オフの徹底に取り組むとともに、毎月、電気使用量を職員間で共有し、意識啓発にも努めます。

②診療材料の安価な同種同効品への切り替え

- ・引き続き、既存の診療材料よりも安価な同種同効品がある場合は、現場に対して切り替えの提案を行うとともに、メーカー間の競争を促すことで単価の引き下げを行うなどの取組を実施します。

(3) 県立西宮病院との統合に向けた取組

令和6年度下半期から7年度にかけては統合に向けた業務が本格化し、従来よりも業務量が増大する見込みです。一方で、中央病院においては統合までの間、診療体制を維持し、経営改善に向けた取組を実施していく必要があることから、各部門と密接に情報共有するなどして、通常の診療業務に加えて、両者の取組の両立に努めていきます。

<主な統合関連の業務>

- ・各部門WGでの協議・検討 …医療情報システム、搬送ロボット等の導入作業など
- ・移転引越業務 …機器・患者の移設に係るスケジュール策定、リハーサル企画など
- ・閉院直前の診療体制に向けた検討… 患者の受入体制など

(参考) 診療科別入院・外来関連指標

入院関連指標

診療科	項目	単位	R6年度 上半期	R5年度 上半期	増減
内科	入院収益	千円	673,931	650,957	+22,974
	入院患者延べ数	人	13,204	11,320	+1,884
	1日平均患者数	人/日	72.2	61.9	+10.3
	新入院患者数	人	991	941	+50
	平均在院日数	日	13.4	12.2	+1.2
	診療単価	円	51,040	57,505	▲ 6,465
	入院手術件数	件	201	196	+5
外科	入院収益	千円	247,505	248,409	▲ 904
	入院患者延べ数	人	2,691	2,708	▲ 17
	1日平均患者数	人/日	14.7	14.8	▲ 0.1
	新入院患者数	人	247	240	+7
	平均在院日数	日	10.7	10.9	▲ 0.2
	診療単価	円	91,975	91,732	+243
	入院手術件数	件	209	215	▲ 6
整形外科	入院収益	千円	34,754	67,361	▲ 32,607
	入院患者延べ数	人	502	1,246	▲ 744
	1日平均患者数	人/日	2.7	6.8	▲ 4.1
	新入院患者数	人	65	69	▲ 4
	平均在院日数	日	7.8	17.3	▲ 9.5
	診療単価	円	69,230	54,062	+15,168
	入院手術件数	件	58	58	± 0
小児科	入院収益	千円	65,527	72,031	▲ 6,504
	入院患者延べ数	人	575	809	▲ 234
	1日平均患者数	人/日	3.1	4.4	▲ 1.3
	新入院患者数	人	149	184	▲ 35
	平均在院日数	日	3.9	4.4	▲ 0.5
	診療単価	円	113,959	89,038	+24,921
	入院手術件数	件	2	0	+2
皮膚科	入院収益	千円	41,393	34,105	+7,288
	入院患者延べ数	人	943	760	+183
	1日平均患者数	人/日	5.2	4.2	+1.0
	新入院患者数	人	85	54	+31
	平均在院日数	日	11.3	14.5	▲ 3.2
	診療単価	円	43,895	44,875	▲ 980
	入院手術件数	件	23	17	+6
泌尿器科	入院収益	千円	193,515	164,066	+29,449
	入院患者延べ数	人	2,814	2,168	+646
	1日平均患者数	人/日	15.4	11.8	+3.6
	新入院患者数	人	268	243	+25
	平均在院日数	日	10.4	8.8	+1.6
	診療単価	円	68,769	75,676	▲ 6,907
	入院手術件数	件	180	155	+25
眼科	入院収益	千円	12,117	16,258	▲ 4,141
	入院患者延べ数	人	126	161	▲ 35
	1日平均患者数	人/日	0.7	0.9	▲ 0.2
	新入院患者数	人	58	74	▲ 16
	平均在院日数	日	2.2	2.2	± 0.0
	診療単価	円	96,168	100,984	▲ 4,815
	入院手術件数	件	58	76	▲ 18
歯科口腔外科	入院収益	千円	20,662	34,113	▲ 13,451
	入院患者延べ数	人	364	584	▲ 220
	1日平均患者数	人/日	2.0	3.2	▲ 1.2
	新入院患者数	人	54	76	▲ 22
	平均在院日数	日	6.7	7.8	▲ 1.1
	診療単価	円	56,764	58,412	▲ 1,648
	入院手術件数	件	128	175	▲ 47
麻酔科	入院収益	千円	9,207	11,146	▲ 1,939
	入院患者延べ数	人	120	222	▲ 102
	1日平均患者数	人/日	0.7	1.2	▲ 0.5
	新入院患者数	人	13	15	▲ 2
	平均在院日数	日	9.2	13.9	▲ 4.7
	診療単価	円	76,722	50,208	+26,513
	入院手術件数	件	12	8	+4

外来関連指標

診療科	項目	単位	R6年度 上半期	R5年度 上半期	増減
内科	外来収益	千円	348,515	344,506	+4,009
	外来患者延べ数	人	13,984	13,911	+73
	1日平均患者数	人/日	112.8	112.2	+0.6
	紹介件数	件	1,628	1,498	+130
	逆紹介件数	件	1,527	1,478	+49
	診療単価	円	24,922	24,765	+157
	入院手術件数	件	201	196	+5
外科	外来収益	千円	107,764	100,267	+7,497
	外来患者延べ数	人	4,676	4,596	+80
	1日平均患者数	人/日	37.7	37.1	+0.6
	紹介件数	件	162	208	▲ 46
	逆紹介件数	件	254	298	▲ 44
	診療単価	円	23,046	21,816	+1,230
	入院手術件数	件	209	215	▲ 6
整形外科	外来収益	千円	27,641	27,924	▲ 283
	外来患者延べ数	人	2,957	2,917	+40
	1日平均患者数	人/日	23.8	23.5	+0.3
	紹介件数	件	333	292	+41
	逆紹介件数	件	301	277	+24
	診療単価	円	9,348	9,573	▲ 225
	入院手術件数	件	58	58	± 0
小児科	外来収益	千円	23,461	23,932	▲ 471
	外来患者延べ数	人	2,460	2,508	▲ 48
	1日平均患者数	人/日	19.8	20.2	▲ 0.4
	紹介件数	件	407	359	+48
	逆紹介件数	件	147	89	+58
	診療単価	円	9,537	9,542	▲ 5
	入院手術件数	件	2	0	+2
皮膚科	外来収益	千円	46,536	42,578	+3,958
	外来患者延べ数	人	4,688	4,574	+114
	1日平均患者数	人/日	37.8	36.9	+0.9
	紹介件数	件	561	520	+41
	逆紹介件数	件	455	378	+77
	診療単価	円	9,927	9,309	+618
	入院手術件数	件	23	17	+6
泌尿器科	外来収益	千円	95,012	92,923	+2,089
	外来患者延べ数	人	5,394	5,569	▲ 175
	1日平均患者数	人/日	43.5	44.9	▲ 1.4
	紹介件数	件	300	307	▲ 7
	逆紹介件数	件	533	388	+145
	診療単価	円	17,614	16,686	+929
	入院手術件数	件	180	155	+25
眼科	外来収益	千円	16,446	16,512	▲ 66
	外来患者延べ数	人	1,921	1,998	▲ 77
	1日平均患者数	人/日	15.5	16.1	▲ 0.6
	紹介件数	件	93	68	+25
	逆紹介件数	件	81	63	+18
	診療単価	円	8,561	8,264	+297
	入院手術件数	件	58	76	▲ 18
歯科口腔外科	外来収益	千円	35,802	30,548	+5,254
	外来患者延べ数	人	3,360	2,844	+516
	1日平均患者数	人/日	27.1	22.9	+4.2
	紹介件数	件	595	493	+102
	逆紹介件数	件	518	436	+82
	診療単価	円	10,655	10,741	▲ 86
	入院手術件数	件	128	175	▲ 47
麻酔科	外来収益	千円	34,640	34,521	+119
	外来患者延べ数	人	4,502	4,232	+270
	1日平均患者数	人/日	36.3	34.1	+2.2
	紹介件数	件	98	81	+17
	逆紹介件数	件	49	40	+9
	診療単価	円	7,694	8,157	▲ 463
	入院手術件数	件	12	8	+4